令和6年度子ども文庫功労賞受賞

可能性と希望に向かって語りかける

「おはなし会昔っコ」の梅田恵子さんが、公益財団法人伊藤忠記念財団による「令和6年度子ども文庫功労賞」を受賞し、市長を表敬訪問しました。

昭和 54 年に絵本の勉強と地域文庫の活動を始め、平成 3年に「ふくま語りの会」を結成し、 現在は「おはなし会昔っコ」 の主宰である梅田さん。昔話などを 「語る」活動を福間小学校を皮切りに、現在では福津市や近隣市町の幼稚園・保育園、小・中学校、大学、介護施設などにも活躍の場を広げています。45年に及ぶ活動が評価された梅田さんは「子どもたちは希望そのもので、 大いに可能性がある。可能性と希望に向かって語ることで自分も元気になる」と、思いを語っていました。

▲福井市長と表彰状を掲げる梅田さん（右）

介護予防・認知症予防の取り組み

高齢者の大切な交流の場

住み慣れた地域で健康に暮らし続けられるように、地域の高齢者が健康体操などを行い、ふれあいの場所として集う「原町げんき塾」が、3月25日に原町公民館で行われました。

最高齢97歳、平均年齢は87歳の参加者15人が、国語の読み書きや100問もある計算ドリル、数字が印刷された盤の上に同じ数字の駒をできるだけ素早く置いていくゲームを難なくこなしていました。この日は、光陵高校の生徒会を中心とした生徒15人と福間中学校の生徒1人がボランティアスタッフとして会場設営や計算ドリルの採点を行いました。若い世代との交流で高齢者の皆さんはとても生き生きとしていました。

▲計算ドリルに取り組む高齢者と光陵高校の生徒

第9回ふくつの古墳まつり

春の訪れと古代の営みを感じる

ふくつ観光協会主催の「第9回ふくつの古墳まつり」が、3月1日から3月20日まで、カメリアステージや新原・奴山古墳群を会場に開催されました。３月２日にはボランティアガイドによる古墳ガイドミニツアーのほか、弓矢の的当てゲームや火おこしなどの体験イベントが古墳会場で開催され、来場者は春を感じながら楽しんでいました。

また、市文化財課職員による5･6号墳現地説明会では、職員から令和６年度の発掘調査状況と周囲の古墳群についての説明があり、参加した皆さんは時折質問をするなど、職員の説明を熱心に聞いていました。

▲古墳の前で説明を行う市文化財課職員と参加した皆さん

WEBやSNSで情報発信中です！
市公式 LINE
LINE ID @975lauty
市公式フェイスブック
https://m.facebook.com/fukutsu.city

令和7年度福津市消防団辞令交付式

市民の生命と財産を守るために

火災や水害などの有事の際には、仕事の合間を縫っていち早く現場に駆けつける消防団員。そんな市民の生命と財産、安全・安心を守る市消防団の辞令交付式を4月11日に行いました。

辞令交付式では、4月から新消防団長として就任した水上雅博さんから、各分団長や新たに入団した12人の新入団員に辞令が手渡されました。続いて、新入団員による服務の宣誓が行われ、新入団員を代表して中野彰文さんが福津を守っていくという決意を宣誓しました。

▲水上団長から辞令交付を受ける新入団員の中野さん

春の交通安全県民運動オープニングイベント

交通事故防止を呼び掛け

春の交通安全県民運動オープニングイベントが4月6日にイオンモール福津で開催されました。新小学1年生へのランドセルカバーの贈呈式やパトカーの試乗体験などが行われたほか、宗像警察署と宗像交通安全協会、福津・宗像市が協力し、啓発グッズを手渡しながら交通安全を呼び掛けていました。

▲啓発グッズを受け取る親子

市民団体が手縫いの雑巾を寄贈

子どもたちのために

ボランティア団体「ビーチクリーンズ」「さくらんぼグループ」「マスカットグループ」「さざなみ会」の皆さんが3月21日に市役所を訪れ、手縫いの雑巾601枚を市に寄贈しました。市民団体の皆さんは30年以上雑巾の寄贈を続けていて、この雑巾は市内の保育所や幼稚園、小学校で活用しています。

▲手縫いの雑巾の寄贈を受け取る福井市長

～読者の皆さんから寄せられた市内の出来事や旬の話題をお届け～

街角カメラリポート

中国から来た４人の女性

U・Tさんからの投稿です

カメリアステージで「ふくつの古墳まつり」が3月16日に行われた。歴史資料館の入口で古代人に扮（ふん）した男性に出迎えられ、話を聞くうちに、ある展示物にくぎ付けになった。

さびた8本の縫い針。奴山正園古墳で発見された一部らしい。5世紀前半ごろ中国の呉から裁縫の技術を伝えるために日本に派遣された4人の女性がいたそうだ。その女性たちが初めて鉄製の縫い針を日本に持ち込んだという。住み慣れた故郷を捨て家族や知人と別れ異国の日本へ、どんなに心細かったことだろう。

しかし、荒波を乗り越えてやって来た彼女たちの勇気と決断によって日本に裁縫という新しい服飾文化が生まれたのだ。その後１人の女性が福津に残り後進の育成をしたと伝えられている。

後に縫殿神社が建立され裁縫の神として4人は手厚く信仰されるようになったという。遠い故郷に思いを馳（は）せながら縫い針を動かし続けた女性たちの姿が目に浮かぶような気がする。

▲展示されている鉄製縫い針